

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鳥取市立桜ヶ丘中学校（鳥取県）【指定校】

【取組内容】 家庭学習と連動した授業づくりを目指して

本校は、「学力向上プロジェクト～意欲と結果の向上をめざして～」という研究テーマとし、今年度より家庭学習と連動させることを意識した授業づくりに取り組んだ。授業では、協働的な学びやICTを活用して、わかる・おもしろい授業を実践するとともに、予習型・復習型など教科の特性を生かした意味のある・授業とつながる家庭学習に取り組んだ。その中で、スプレッドシートや学習支援ソフト等を活用することにより、自分の思考だけでなく、他者の考えを参照するなどの多様な学び方を通して、学びを深めることができた。

国語

授業実践

- ①言語事項（漢字・語句・文法 など）の小テスト・単元テストの実施

⇒ 6～7割程度の生徒には定期テストの結果に効果がみられる。

- ②振り返りを次の時間の導入に生かしたり、単元のまとめをする際に改めて見返りさせる。

⇒ 振り返りの質の向上、国語的な見方・考え方に変化はみられるが、即時の点には結びつかない。

- ③古典暗唱テストの実施

⇒ 暗唱、歴史的仮名遣いの定着には向上が見られる。

家庭学習

- ①小テスト・単元テストの範囲を示した上での反復課題

- ②授業の振り返りを家庭学習の中で実施。学習支援ソフトで次の時間までに共有を図る。

- ③家庭で暗唱練習、学習支援ソフトに録音し送信させる。

理科

授業実践

- 授業はワークシートを用意 毎回、ノート点検＆紹介
- 実験観察前後で、実験を行う意味・実験結果からの考察を班ごとに行う。取り組んだワークシートを教員が点検し、返却（アドバイス込）し再度考察する。その後全体共有。
- ▶ 思考するタイミングが増える。班で行うことで対話を行いながら思考を促し、課題解決のための取り組み姿が見られた。考察する機会が十分に与えられているので、全体共有をスムーズ。班によっては、全員が理科を苦手としている班もあり、教員がサポートを行う手が回らない。班によって差が激しい。
- 授業ノートの取り方や授業の受け方について指導。

家庭学習

- 本日した授業の内容を教科書・プリント等を使って「ノート」にまとめて復習
- 「楽しい理科」を計画的に出してトレーニング
- 復習型の課題としてワークを用い、その点検を授業中に一人ひとり行う。課題の取り組み状況を隣同士でワークを交換し確認。
- ▶ その場で、教員が良いも悪いも一人一人に直接伝えることができる。家庭学習の意欲にもつながる。点検に時間はかかるが。
- 家で取り組んだ課題を次の授業で小テスト。
- ▶ 意欲的に取り組む姿が見られたが、分野が変わると、分野の特性上小テストを継続して行うことが難しいこともある。
- 小テストの内容を事前に提示し、次時で実際に小テスト
- ▶ 知識の定着、家庭学習の習慣化

英語

授業実践

- * スラスラEnglish（対話練習）の実施
 - 中間テスト並べ替え問題正答率向上（SV00、SV0C）
- * 英作文（ALTへ鳥取のおすすめ、GWの思い出）
- * 新出文法を用いたインタビュー活動

- * 小テスト（パートごとに単語テスト）
 - 覚えるために直前まで練習。複数形・過去形を区別して覚えようとする意識
 - 長いつづりの連語、音と異なる単語

- * 単元テスト（単元が終わったら実施）
 - 定期テストに類似問題を出題

- * ワーク、学習ノート
 - 内容をおかた理解できていると細かい文法や音読に集中できる。
 - 本文書き半数以上、日本語訳6名ほど。

家庭学習

- ・スラスラの質問文を **がんばり帳** に書いて練習
 - ▲ 反復練習のみになっている。
- ・英作文に関わる過去形、動詞を調べて **がんばり帳** に書く。
- ・授業でインタビューしたことを授業中に2文程度書いておき、続きを **がんばり帳** に練習。
- ▲ 動詞のつづり間違えたまま練習

- ・間違えた単語を **がんばり帳** に10回以上書く。
- ▲ 覚えた単語を文の中に組み込んで英作文し、自己表現につなげる。

- ・間違えた問題を **がんばり帳** に練習。

- ・学習ノートは単語調べ、本文、日本語訳など内容によって評価を区別。

実技教科

授業実践

- ・思考力・判断力・表現力の面で、インプットアウトプットの場を重要としている。（タブレットで）
- ・他学年との合同授業（体育科）
- ・家庭生活習慣・規律の習慣づけ（タブレットの置き場や家庭で過ごすための時間配分など）

- ・地域食材や郷土料理の知識習得
- ・幼児との触れ合いを想定した遊びに関する知識の習得（家庭科）
- ★ 4教科トータル・いかに実生活に4教科で学んだことを活かせるか（生活力・人間力）

家庭学習

- ・批評文でまとめて提出
- ・各自の運動習慣を見直すために、現在の運動習慣をまとめる（紙ベース）
- ・規則を位置付けることで、学力向上にもつながるための学ぶきっかけづくり・仕掛け（課題だけが家庭学習だけではない）
- ・夏休み課題として、地域食材の調べ学習と郷土料理の実践活動と取り組ませた。
- ・幼児との触れ合い体験で実際に活動する工作遊びについてレポートに取り組ませた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鳥取市立桜ヶ丘中学校（鳥取県）【指定校】

【取組内容】 社会課題と向き合う探究的な学びの実践（全校・総合的な学習の時間で実施）

今年度より『さくらタイム（総合的な学習の時間）』の中で、Googleスライドやスプレッドシート等の汎用的なソフトウェアを活用し、プロジェクト型の探究学習を全校で展開した。この探究学習を通じて、生徒は社会課題と向き合い、自ら調査・分析を重ねながらその解決策を模索するとともに、多くの方々から多角的な助言や指摘を得て、自らの成果物を練り上げていった。生徒にとっても教員にとっても大変貴重で学びの多い経験となった。

【1年】 分析力 表現力
【2年】 対話力 共創力
【3年】 課題発見力 課題解決力

何が身についたか

何を学ぶか

どのように学ぶか

【1年】 校区の特色
【2年】 地域の魅力
【3年】 鳥取市の課題

○STEAM教育
○PBL(課題解決型学習)

さくら未来プロジェクト

1年生

さくら企業クエスト
～知る～

解決策を見出し、
その考えを他者へ
伝えることができる

分析力 表現力

2年生

さくらプロデュース
～つくる～

いろいろな意見を
すり合わせ、アイデアを
形にすることができる

対話力 共創力

3年生

さくらはる課's
～生かす～

課題を発見し、考えた
解決策を実行できる

課題発見力 課題解決力

1年
さくら企業クエスト

校区の企業の課題解決を
柱とし、校区の魅力を見い
出すことを通して、自己の未
来像を考えながら、学ぶこと
の価値を見出す

2年
さくらプロデュース

地域の課題解決を柱とし、
地域の方と連携しながら成
果物を作ることを通して、自
己の進路を考えながら、働く
ことの価値を見出す

3年
さくらはる課's

鳥取市の課題解決を柱とし、
自分たちで考えた解決策を
実行することを通して、学
びを社会へどう生かすのか考
えながら、自己の生き方を
考える



リーディングDXスクール事業【実践事例】

鳥取市立桜ヶ丘中学校（鳥取県）【指定校】

【取組内容】校務ポータルサイトの本格的な運用

今年度、Googleサイトで作っている校務ポータルサイトをリニューアルした。校務ポータルサイトに必要な情報を精査し、すぐに確認したい情報は常に可視化するとともに、関連する情報をメニューごとに整理したことによって、サイトの配置が固定され、目的の情報を迷うことなく迅速に探し出すことができるようになった。さらに、クラウドでデータを管理することで、いつでもどこでも端末から必要な情報にアクセスできるようになった。

【メニュー】

Home・時間割・入力・職員会・桜咲タイム・探究・研究・ICT・リンク集

【毎日の確認】
出欠確認
健康観察
全校のクラスルーム
職員チャット
学年日報

【本日の動き】
今日、明日の流れ
全体日報
来客情報

【スケジュール】
月行事予定
カレンダー

